

二二〇七番

我がやどの 浅茅色付く 吉隠の 夏身の上に  
しぐれ降るらし

二二〇八番

雁がねの 寒く鳴きしゆ 水茎の 岡の葛葉は  
色付きにけり

二二〇九番

秋萩の 下葉の黄葉 花に継ぎ 時過ぎ行かば  
後恋ひむかも

二二一〇番

飛鳥川 もみち葉流る 葛城の 山の木の葉は  
今し散るらし